

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域やご家族とのつながりを大切にし、もう一つの我が家として自分らしく自分の力を発揮できる環境づくり、気持ちに寄り添ったケアの実践を常に意識しながらケア出来るよう心掛けている	3項目からなる企業理念の下、ホーム独自の運営方針が立てられており、スタッフルーム等に掲示し職員はミーティングで確認しあい共有に努めている。理念にそぐわない言動が見られた時は施設長が職員に、利用者を見下ろさず嫌な思いをさせないこと等の指導をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染症などの為、制限する時期以外は、地域のスーパーへの買い物、近所の神社への散歩、ドライブ等、外へ出かける事を大切にしている。また、村の行事への参加もし、地域の方との交流もしている	区費を払い地区の一員として活動している。ホーム近くに集会所があり区の定例会にも呼んでいただいている。冬季はホーム前の歩道や散歩コースの雪かきをしている。近くの神社や周辺の散歩に出かけると近隣の方が気軽に声をかけてくれ、ホーム主催の敬老会には多くの地域の方々が来訪されてホームを知っていただく機会となっている。保育園児の来訪や中学生の体験学習による交流も行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや見学希望者等も受け入れる事で、認知症の人を理解してもらい、支援や協力のきっかけにつながる事がある		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事故報告や、日々のケアに関する報告を行い、ご家族や、行政の方や地域の方に参加頂き、意見を聞きながら、日々のケアに生かせるようしている	2ヶ月に1回、家族代表、区長(または常会長)、役場職員、ホーム職員、行事に合わせて民生委員などが出席して開催している。敬老会等のホーム行事にあわせて開催することもあり、利用者の様子や活動状況を知らせていただき、活発に意見交換も行われ運営の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居待機者の状況を伝え、現場の様子や課題などの相談をしながら、必要時にはアドバイスを頂いている	役場の担当者とは随時、連絡・相談をしている。更新時認定調査は調査員がホームに来訪して行い情報交換している。地域に向けてホームを知っていただくために「身近な介護相談」として集会所での勉強会や講演会を村社会福祉協議会と一緒に計画している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を繰り返し、話し合い、振り返る機会を持つことで、身体拘束の無い、安全、安心なケアに努めている	ホームは交通量の多い県道に面しているため、玄関は安全確保のため家族の了解を得て施錠している。拘束を必要とする方はいないが、外出傾向の強い方は職員と一緒に散歩に出て近くの神社にお参りして気分転換を図っている。居室に感知器を設置してタブレット端末で利用者の動きを見守ることができ、転倒予防や夜間見守りもできるシステムを導入して安全を確保している。3ヶ月に1回身体拘束委員会を実施して拘束をしないケアに取り組んでいる。	

グループホームあやめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について勉強を行い、日々のケアの中で虐待につながる事が無いか見過ごさない様意識してケアするよう職員に促している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1度勉強会を行い、職員は知識面での勉強を行っている。また、管理者やケアマネを中心に成年後見人の方との連携を取っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や解約の際には、十分に時間を設け、必ず内容に納得のいく状態でサインを頂く様にし、少しでも疑問や不安があればその都度確認し、分かり易く説明をするよう心がけている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設け、匿名で意見が出せる様にしている	殆どの方は自分の意見を伝えられるが、できるだけゆっくり話しかけて要望を受け止めるようにしている。家族の来訪は週3回から年1回と様々だが来訪時には職員から話をして意見や要望を伺うようにしている。月1回、個別の写真入りのあやめ便りを送付して家族に知らせている。家族会はないが、ホーム行事には招待状を出して食事をしながら交流を深めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の職員会議や、人事考課面談、その他、気になる事がある時は、個人面談などを通じ、職員の意見をよく聞く様にし、意見内容を反映させて運営に結び付けている	月1回、両ユニット合同のミーティングを16時から実施している。夜勤者も含めてできるだけ参加できるようにしているが参加できない時は議事録で確認している。活発に討議をして業務改善につなげている。人事考課制度があり、年2回、4・10月に個人目標に対する自己評価をして施設長による個人面談があり、要望や意見を聞いてスキルアップにもつなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は、毎月職員一人ひとりの勤務状況や勤務態度に関する評価を行い、必要に応じて、個々に面談等を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	上手く行っていない職員がいれば、面談を行ったり、ベテランの職員とペアを組んで仕事内容が覚えやすい様に環境を整えている		

グループホームあやめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社全体で他施設の職員との交流を兼ねた勉強会を行ったり、他施設から職員が研修に来るなどして、職員同士の交流や情報交換ができる場を作る努力をしている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に個人情報に目を通し、基本的な人物像を把握すると共に、ご家族にも、家族として出来る寄り添い方や生活の意向などをお伺いするようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時の話し合いにおいて、家族の思いや意向を聴き、それをスタッフ間で共有するようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設入居にあたり、本人やご家族が不安に感じていることをよく聞きながら、必要な支援の提案をさせて頂いている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は支援者、利用者様は支援される者ではなく、お互いが無くてはならない存在として支えあえるよう意識しながら関係作りに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病気やケガなどの報告のみならず、日常の出来事なども伝えるよう心掛け、家族も一緒にケアする一員で居られるように心がけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の居室には、馴染みの家具などを置いて頂いたり、特に、面会時は、ご本人が面会に来た方とゆっくり過ごせるよう配慮している	近所の方や知人の来訪があり、居室にてゆっくりお話しされている。携帯電話を持参し利用している方もおり、充電は職員が手伝っている。近くのスーパーや馴染みの薬局に好みの菓子や飲み物を買って出かけて行き、馴染みの関係も継続できている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う人と過ごせるよう、工夫している。違うユニットの利用者様同士が交友できるような工夫もしている		

グループホームあやめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、ケアマネジャーを中心に、地域の近隣施設の相談員やケアマネジャーと適宜連絡を取りあっている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を聞くのが難しい場合は、本人の様子をよく知っている主介護者やご家族の意向も聞きながら、支援するようにしている	殆どの方は意思表示ができる状況だが、困難な時には生活歴を参考に意向の把握に努めている。どんな時にどうなるのか、好きなこと、できることを探して働きかけている。それらは日誌に記録して職員は情報を共有して支援に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々情報を確認し、不鮮明な事があった際には、ご家族から新たに情報を聴くなどし、新たに必要な情報収集もしながら、これまでの暮らしを生かせるようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	自分の勤務していない時間帯の介護記録などにしっかりと目を通したり、訪問看護師や医師とも連携を測り、把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議の際にカンファレンスを行いケアプランの内容について話し合いを行ったり、ご家族の意向も聞きながら、次回のケアプランに生かせるようケアマネジャーに伝え反映させている	ミーティングの時にケアプランに関するカンファレンスを行い、モニタリングは毎月、見直しは3ヶ月に1回実施してケアマネジャーによる計画作成に反映させている。状態に変化が見られた時には随時、見直しをしている。家族には面会時や電話、手紙で意向を伺っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	特に、介護記録には、その方のその日の状況が分かるよう書いたり、職員の気づきや本人の言葉なども書き記し、その人の表情が現れる様な記録になるよう工夫している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に受診の際は、ご家族の協力を頂くのが基本だが、通院の付き添いや送迎等相談に応じ、柔軟に対応できるようにしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	冬季間を除き、読み聞かせボランティアの定期訪問や歌やダンスのボランティア等を招き、地域の方と交流をしながら、楽しんで頂く機会を設けている		

グループホームあやめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病院に行くのが難しい方でも、適切な診察が受けられる様、個々の状態に合わせて、提携医による月に1度の訪問診療や、臨時の訪問診療なども受けられる	利用者全員がホーム協力医による月1回の訪問診療を受けている。状態に合わせて臨時の訪問診療もある。耳鼻科等は協力医の指示で受診している。歯科は家族の承諾を得て協力歯科医の往診を受け口腔ケアに役立っている。週1回、木曜日に訪問看護ステーションから看護師が来訪し体調チェックや相談を受けていただき連携を取っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の定期訪問時には、介護職員と情報交換を行い、適宜利用者様に必要な医療面でのアドバイスやフォローをしている。定期訪問以外にも、電話での相談や緊急訪問等も対応している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時には、ケアマネージャーがカンファレンスに参加し、退院後の施設生活について事前に話し合いを行った上で、退院できるようにしている。また、入院中に様子を見に行ったり、入院時の情報提供も行い、連携に努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り期になった場合、主治医、家族、訪問看護師とカンファレンスを行う。また、その情報をユニットの職員と共有し、本人や主介護者の思いを生かした最期を迎えられる様支援している	重度化対応・看取り介護に係る指針があり、利用契約時に説明して意向を確認している。開設以来8名の看取りを行っている。状態に応じて協力医、家族、訪問看護師、職員とカンファレンスを行い利用者、家族の希望に沿って最期を迎えられるように支援している。年1回、職員は勉強会を行い、また、最期に立ち会った職員には、ねぎらいの言葉をかけるとともに体験を活かせるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置しており、使用方法については入社後、適宜研修が受けられるように調整している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	勉強会や、施設長会議を通じ、避難順序や、避難場所の把握、停電時の炊飯訓練等をしている	年2回(4・8月)、消防署指導の下避難訓練を行っている。火災や夜間想定をして対応している。利用者は玄関から駐車場に避難して、民生委員の声かけで参加された近所の方達に見守りをいただいている。消防設備管理会社の方にも参加していただき通報装置を使った対処の仕方についての指導も受けている。昨年の台風19号の災害時は災害協定を結んでいる事業所の支援に向けて行動し、今後に向けて多くを学ぶことができたという。	

グループホームあやめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	便失禁や尿失禁があっても、利用者様が落ち込まないように、見守り、声掛けを行い、ケアに入るタイミングを見極めてから介助に入るようにしている	利用者の人格の尊重に心がけている。言葉づかいや排泄のケアには特に気配りをしている。苗字や名前前に「さん」付けでお呼びしているが、小さい時のように「ちゃん」とお呼びするとうれしそうな表情をされ、反応もよく親しく話ができることもある。その場合はケアプランに入れて臨機応変に対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ、スタッフの思いで動かないよう心がけている。例えば、衣服を選ぶ際は、何枚か見せ、どれを着たいか一緒に選ぶ等利用者様が暮らしの中で選択できる事を大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせたケアが出来るよう、職員皆で心掛けている。就寝時間も、個々が眠くなるタイミングを見極め、それまでは、テレビを見たり雑談をしたり、リラックステして過ごせるよう工夫している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に洗顔と共に、整容・整髪を行い、身だしなみが整うよう個々に合った支援をしている。また、定期的に散髪を行い、清潔感があるようにしている。服装も、季節に合った服装の提案を心掛けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に野菜の下ごしらえを行って頂き、場合によっては、ミキサー食や刻み食等形態を工夫し、出来るだけ自分の歯で、自分の口で食べる喜びを味わっていただけるよう支援している	数名の方は介助が必要だが、あの方にはそばにいて声かけすることで自力で摂取できている。食形態はペースト、刻み食が数名ずつで半数以上の方は常食を摂取している。お手伝いは利用者の力量に合わせてしていただいているが、立ち仕事が多くなってきているので指先を使ってキノコを割く、キャベツをちぎるなどの野菜の下ごしらえが主となっている。利用者から「やることない？」と声がかかることもある。献立は1週間分ずつスタッフが立て、食材は業者から届いている。利用者の希望も取り入れており、最近では焼肉が好評だったという。近所や家族から野菜の差し入れもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その日の利用者様の体調に合わせ、量・形等を工夫するように心がけている。食事が摂れない場合、時間をずらしたり、出来るだけ、無理なく安全に、美味しく召し上がって頂ける様工夫している。また、脱水にならないよう水分補給も気を付けている		

グループホームあやめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行い、本人の出来る事は本人にやって頂いたり、出来ない部分は手伝いながらやっている。夜間は、本人の了解を得て、義歯を預かり、洗浄を行っている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を生かし、その人に合った排泄パターンで、利用者様が無理なく出来るだけトイレでの排泄が出来るように支援をしている	見守りで自立の方が数名おり布パンツを使用している。他の方は介助が必要でリハビリパンツとパットを併用し、数名はオムツを使用している。介護用品は家族にも相談している。排泄表をつけてパターンにあわせて声かけをしている。排便状況はさり気なくトイレの様子を見守り排便を確認したり、看護師による腸音の確認をしている。トイレは「トイレ」「便所」「お手洗い」と表示があり使い易くなっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を生かし、個々に合った排泄ペースの把握を意識している。また、起床時に牛乳を飲んで頂いたり、おやつにヨーグルトなどを食べて頂くなど食の工夫や、便秘がちな方は、散歩など運動も取り入れている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バスクリンを使用し、色や香りで楽しんで頂いたり、お湯の好みを伺って湯温を好みに調整したり工夫しながら入って頂いている。どうしても、入りたくないという以降の場合には、日にちや時間をずらし、気が向くのを待って入って頂く様にしている	明るく開放的な浴室には、一般浴槽と特殊浴槽があり利用者の状態に応じて使い分けている。全利用者が何らかの介助が必要な状況であるが、基本的には週2回の入浴を行っている。菖蒲湯等の季節のお風呂や入浴剤を使って香りを楽しまれている。入浴を拒む方には言葉かけを工夫したり、蒸しタオルを使う等してお誘いしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室で横になって休むばかりではなく、ホールのベッドで休む事を希望されたり、他者との会話を楽しむ等利用者様に合わせてリラックスできる方法で休息時間を過ごして頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬を防ぐ為に、名前の確認を行っている。排便薬は、主治医や訪問看護師からの指示をもとに利用者様の排便状況やその日の体調に合わせてスタッフ間で相談しながら内服して頂いている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴の中で、趣味や興味を把握し、カンファレンスにて共有している。同じ事をするのではなく、一人一人の好きな事や得意な事を活かした取り組みが出来る様な環境にしている		

グループホームあやめ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者様からの希望があった時は勿論言葉での希望を伝えるのが難しい方でも声掛けをし、随時外出機会を設ける様にしている。通院や、買い物等、個々に合わせた外出支援も行っている	外出時、半数の方は歩行器使用で、自力歩行できる方と車いす使用の方が数名ずつとなっている。全員での外出・ドライブは難しいが、出かけられる時は半分ずつ交代でお花見や紅葉狩りなどに出かけている。日常的には近くの神社やホーム周辺の散歩を楽しまれたり、希望の買い物にも出かけて気分転換している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば、お預かりしたり、本人が手元に持っていて、本人、もしくはスタッフがかわって買い物等出来る様にしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望すれば、必要な部分は手伝いながら、電話が出来るよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた適温で過ごして頂けるように、温湿度計を設置し、気を付ける様にしている。また、切り花を飾り、利用者様が季節感を感じられる様工夫している。	玄関を入ると大きな内裏雛が迎えてくれる。桃の枝が飾られて季節を感じる。両ユニットの仕切りを外し、広々としたリビングで開放感がある。開設7年目だが、床はきれいに磨かれて清潔な空間で生活ができています。リビングにはテーブルやソファが置かれて各自思い思いの場所で過ごしている。リビングからテラスに出ることができ、ベンチが置かれて日光浴や景色を眺めて気分転換を図ることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベッドやソファを置き、自由に座ったり気の合う利用者様同士が過ごせる様な空間になっている。また、テラスのベンチで、外の風にあたりたり、景色を楽しんで頂いている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、出来るだけ本人の使い慣れた家具を置いて頂き、自宅に居る様な環境に近づける様にしたり、家族の写真を置き、家に居る空間に近づけるよう考えている	各居室にはクローゼットが備え付けられており、衣類等が使い易く収納されている。入口の壁には温湿度計があり、体調管理のための気配りがされている。使い慣れた寝具や家具、テレビが持ち込まれ、家族の写真や誕生日カードなどに囲まれ、居心地良く過ごしていることが感じられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内を明るくし、トイレの場所を分かり易くしたり、手すりも安全につかまりやすいよう工夫されるなど、環境の整備をしている		